

近年の豪雨による構造物被害
ー河川橋梁を中心とした構造物の被害事例と今後の対応ー

近年、集中豪雨による災害が頻発している。過去3年間を振り返ると、平成30年7月上旬に発生した豪雨では広島県、岡山県、愛媛県などに甚大な被害をもたらした。令和元年の8月には佐賀県～福岡県の広い範囲にかけ線状降水帯による集中豪雨が発生し、9月から10月にかけて台風15号と19号が相次いで関東地方に上陸、特に19号は記録的な大雨となり甚大な被害をもたらした。令和2年になっても豪雨による災害は続き、7月に熊本県を中心に九州や中部地方で集中豪雨による災害が、9月にも南西諸島や九州を中心に台風10号による暴風、大雨による災害が発生している。

これらの豪雨では河川氾濫や土砂くずれによって多くの方が被災されたが、構造物も河川橋梁が流されるなどの多くの被害がみられた。

今回の構造工学セミナーは、このような豪雨災害での構造物被害に着目し、その被害実態の把握と今後の対応について考える機会として、各機関の専門家にご講演いただくセミナーを企画しました。多くの皆様の参加をお待ちしております。

(参加お申込み <http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>)

1. 主催：土木学会（構造工学委員会）
2. 期日：2021年3月5日(金)
3. 会場：オンライン（Zoom 大規模ミーティング）
4. 定員：300名
5. 参加費：会員 2,000円、非会員 3,000円、学生 1,000円
6. プログラム

13:00～13:10 開会挨拶

構造工学委員会 委員長 勝地 弘（横浜国立大学）

13:10～13:40 熊本豪雨災害を例にどのような現象が起こったか（仮）

熊本大学 教授 大本照憲

13:40～14:10 豪雨による球磨川周辺の橋梁被害

熊本大学 教授 松村政秀

14:10～14:20 休憩

14:20～14:50 豪雨災害と津波災害について（仮）

九州工業大学 名誉教授 幸左賢二

14:50～15:20 緊急仮設橋に関連したご講演（仮）

（一社）日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 小野秀一

15:20～15:40 豪雨による構造物被害のフリーディスカッション（聴講者からの質疑による）

15:40～15:50 閉会挨拶

構造工学委員会 副委員長 岩城一郎（日本大学）